望学校地域支援だより



親の会では、7月30日に聾学校の通級指導教室、高校通級を利用していた伏木和香さんとお母様をお迎えし、 講演をしていただきました。伏木さんは地域の小学校・中学校・高等学校を卒業され慶應義塾大学に進学、環境 情報学部にて3DCGやデジタルツインなどの研究をされています。講演では、自身の経験をもとに学校生活の 過ごし方や気を付けていたことなどについてお話をしていただきました。

開演の競子



講演のはじめに、伏木さんから自分の生い立ちや障がいの程度、大学での取り組みなどについてお話をしていただきました。その後のお話の中でも、「周りをよく見て動いたり、先読みして動いたりしていた。」や「早めに受験の対策をはじめた。」など、聞こえないことはハンデであり、マイノリティであることを認識しながらも、その中で周りの人と関わっていくために必要なことや「難聴だからと諦めたくない」「勉強も部活でも成果を出すために何が必要か。」などをご自身の経験をもとにお話してくださいました。

小学生の時

低学年の時には難聴であることを気にしていなかったが、3年生頃から「聞こえない自分」「マイノリティ」であることを認識。人間関係がうまくいかないこともあった。

だが、「聞こえないハンデがありながら周りとうまくやるには?」と考え、周りをよく見て、見通しをもって 行動したり、予習をしてから授業に臨んだりすることを心がけていた。その結果、理解してくれる友達の大切 さに気付き、勉強にも遅れることなく小学校生活を送ることができた。

中学生の時

「難聴だから諦めたくない」「勉強も部活も成果を出したい」と考え努力を重ねた。勉強では家庭での予習や早めにテストの対策を行ったり、授業やテストでの配慮を事前にお願いしたりしていた。部活動でも顧問の先生とできる事できないことを相談し活動を行っていた。高校入試に向けても、早めに先生方と相談し配慮手続きの準備を進めた。

高校生の時

コロナ禍だったため、「マスクでロ元が見えない」「オンラインの音声が聞き取りにくい」などコミュニケーションがとりにくい環境が増えた。だが、グループワークでは文字に書き出してもらう、オンライン授業では、友達に後で確認をとったり、教科書で確認したりするなど工夫をして取り組んだ。

2年生の冬に志望校を決定。入試に向けて早く準備を始めた。

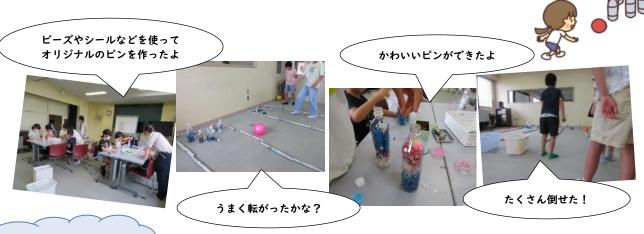
講演後には、保護者や生徒からの質問にも答えていただき、充実した時間を過ごすことができました。

開演の感想

- ・私も「あっ、大丈夫です」「特に…」といつもにごしてしまっていたと、聞いて気づくことができま した。これからは勇気を持って、自分の正直な気持ちを伝えてみようと思いました!!【生徒】
- 本人が自ら授業等の配慮を先生に伝えなければならない事が今後増えると思うので、自分でそのような配慮について他の人に伝えられるようになってほしいと思いました。【保護者】
- ・高校受験、大学受験で配慮申請が大切であることを知ることができました。 難聴を理由にできることに線引きしていましたが、そうでないことに気付きました。色々なことにチャレンジさせていきたいと思います。【保護者】

サマースクール〈集団遊びの職子〉

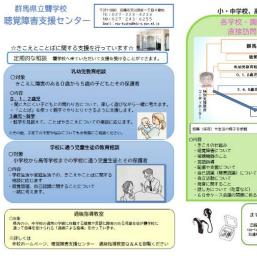
小学生は、「ボウリング」で遊びました!活動の様子です!



みんなの感想

- みんなと遊べてうれしかったし、工作のペットボトルがうまく作れたので、とても楽しかったです!
- ・ボウリングを作ったり、コースを作ったり、点数を書いて、点を決められて楽しかったです。自分のチームがまけてしまったので少しくやしかったです。
- シールを貼るのとかかざりつけが楽しかった!

聴覚障害支援センターのチラシが新しくなりました!







詳しくは、群馬県立聾学校ホームページ内の <u>聴覚障害支援センター紹介</u>のページからご覧 ください。

